



移り変わる橋の歴史 ～北明治橋～

壺川駅から奥武山運動公園向けにホームを降りると、公園へ渡る遊歩道「北明治橋」が迎えてくれます。しかしなぜ北明治橋の南東側にあるのに、「北」明治橋と呼ぶのでしょうか。北明治橋のたもとにある4基の歴史案内板のひとつを読んでみると分かります。

明治のはじめ頃、那覇に到着した人や物資を伝馬船で垣花まで移動し、そこから島尻帯へと向かいました。明治16年(1883年)に、渡地(わたじ)と、今の通堂町の一角にあった小島と垣花を結ぶ木造の橋が造られました。それが初代の明治橋です。

しかし、水害で一部が流失し、そのあと渡地から御物城(ごものしろ)のすぐ、那覇軍港の突端付近を結ぶ北明治橋と御物城と垣花を結ぶ南明治橋が誕生しました。

後に、渡地から奥武山を結ぶ北明治橋(今の明治橋)と位置と奥武山と垣花を結ぶ南明治橋ができました。初代明治橋から、どんどん上流のように造られていったことが分かります。戦時中、日本軍が米軍の侵攻を防ぐために、橋を爆破し、戦後は米軍が軍用道路の一部として、鉄骨で橋を架け、南明治橋は、米軍の埋め立てによって、その姿を消しました。

現在の明治橋は、昭和62年に改修され、大勢の観光客や市民、県民に利用されています。そして昨年、戦前の明治橋をモチーフに、「北明治橋」が造られました。

あなたが選ぶ
映画音楽祭
1月9日(金)

開場 午後6時 開演 午後7時
場所 那覇市民会館大ホール
一般2,500円 学生1,500円
指揮 山下一史 演奏 琉球交響楽団
ゲスト 南 絹子(ジャズボーカリスト)
平良 敏人(ピアニスト)

お問い合わせ 文化振興課 ☎831-8401

日本名作映画劇場2003
と き:1月16日(金)～18日(日) ※一日通し券 3,500円
(上映時間は7面のパレット市民劇場に掲載)
と ころ:パレット市民劇場(パレットくもじ9階)

★上映作品★
「大江戸五人男」
「銭形平次捕物控 人肌蜘蛛」
「旗本退屈男」
「赤穂浪士」

お問い合わせ 文化振興課 ☎831-8401

第27回 那覇市民バザール
～よみがえれ不良品～

日 時 2004年1月17日(土)
午前10時～午後2時
場 所 那覇市民会館中ホール
主 催 那覇市・那覇市婦人連合会
お問い合わせ先 那覇市婦人連合会 ☎836-3252

第9回
視覚障害者マラソン
～2004ふれあいマラソンたまぐすく～

開催期日 **2004年1月25日** SUN
スタート AM10:00

場所▶ 沖縄県立玉城少年自然の家 コース▶ グスクロード(玉城村)及び周辺道路
お問い合わせ 沖縄県視覚障害者福祉協会 ☎863-2997
南部広域市町村圏事務組合 ☎862-2431

沖縄芝居の活性化を図り、後継者の育成を支援する那覇市沖縄芝居支援事業の第1回目として、劇団舞台と劇団花園による初の合同公演が、去る12月13日(土)と14日(日)、パレット市民劇場で行われました。時代明朗歌劇「恋しき朝」、時代人情劇「昔子守節(んかしくわやぶし)」を市の助成により特別料金で上演。軽妙な演技に客席から笑いがあふれ、人情味ゆたかな語り口に目頭を押さえる観客の姿が見られ、新たな沖縄芝居ファンを生み出す公演となりました。



人情味ゆたかな演技に涙 第1回那覇市沖縄芝居支援事業



青少年が伝統文化を披露 世界遺産を舞台に「識名園友遊会」

真和志地区の青少年が日頃、学校や地域で習得した伝統芸能や文化を発表する「第5回識名園友遊会」が去る12月13日(土)・14日(日)、世界遺産の識名園で開催されました。

御殿(ウドゥン)では保育園児や子ども会などによるぶくぶく茶体験や琉球かるたの実演、舞台では青少年を中心に琉球舞踊、空手、三線、エイサー、棒術、獅子舞、民俗芸能、太鼓などが次々と披露され、地域が一体となって、大人から子どもへと受け継がれていく伝統文化を発信しました。

市では去る11月28日、ハンセン病の療養生活を送っている那覇市出身者をはじめ入園者のみなさまを激励するため、伊藝助役や市議会議員、市職員らが名護市の沖縄愛楽園を訪問。激励金を贈呈し、芸能公演で入園者との交流を深めました。

今回の芸能公演には舞踊家の當間武三さんらが出演。琉球舞踊や一人芝居などバラエティあふれる演出を入園者のみなさまに披露しました。那覇市の愛楽園への訪問交流は復帰前の1955年(昭和30年)以来今回で49回目を数えました。



ハンセン病療養者を激励 市が49回目の「愛楽園」訪問



ブンヨーさん、お帰りなさい! 日本列島3300キロを徒歩で縦断

ベトナム戦争の報道カメラマンとして知られる報道写真家の石川文洋さん(65歳)が日本列島縦断「徒歩の旅」を終え、去る12月10日午後2時、最終目的地の生まれ故郷、那覇市に到着しました。

石川さんは「高齢社会に元気を与えられれば」という思いから2003年7月15日北海道宗谷岬を出発、5ヶ月近くをかけて約3300キロの日本列島を自らの足で縦断したものです。

石川さんはこの日、日焼けした元氣な笑顔で、パレットくもじ前で待ち受けた報道陣や市民らに迎えられました。